



横浜市立万騎が原中学校 学校だより

桐の花

令和2年6月12日

校長 中村 雅一

横浜市旭区万騎が原 31 TEL 045-391-5514 FAX 045-391-5537

URL <http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/jhs/makigahara/index.cfm>

『ウイルスの次にやってくるもの』

校長 中村 雅一

日本赤十字社が「YouTube」でメッセージ動画を公開しています。「ウイルスの次にやってくるもの」と題して、アニメーションと音楽に合わせて、次のようなメッセージが流れます。

「きちんと手を洗うだけで、感染する確率はぐんと下がる」「でも、心の中にひそんでいて、流れていかないものがある」……

「そいつの名前は、**恐怖**」「もしかしたら、ウイルスよりも恐ろしいもの」

具体的な対処法も紹介されています。「恐怖に餌を与えない」「恐怖のささやきに耳を貸さない」

「恐怖から距離をとる」「恐怖が嫌がることをする」

最後は、こんなメッセージで終わります。

「励ましあおう。応援しあおう。人は、団結すれば、恐怖よりも強く、賢い。恐怖に振り回されずに、正しく知り、正しく恐れて、今日、わたしたちにできることを、それぞれの場所で」



<日本赤十字社の動画「ウイルスの次にやってくるもの」の一場面>

さて、緊急事態宣言が発せられ様々な施設やお店への休業要請、不要不急の移動についての自粛が求められていた中で、残念ながら、心配されたことが現実の世界でもネットの世界でも起きました。「クラスター（集団感染）」が発生した組織の関係者に対して、飲食店が入店を拒否したり、県外ナンバーの車に「即刻出ていけ」「コロナをまき散らすな」という貼り紙をする嫌がらせやドアミラーを壊すなどの悪質な行為、感染を知らずながらバスで帰京した人へのデマと誹謗・中傷に加え、個人情報などをさらすという「ネット私刑」へとエスカレートしました。様々な理由で東京から移動してきた人に対して、差別的なふるまいをする例。コロナと最前線で闘っている医療従事者やその家族への差別もありました。SNSを中心に「正しさ」という正義の剣を武器にして振りかざし、「正しさ」の押しつけが始まり、発言は徐々に感情的になっていきました。実力行使で「正す」人々が現れ、「自粛警察」「コロナ自警団」と呼ばれるような現象も見られました。

なぜ、こんなにも「正しさ」に縛られてしまうのでしょうか。「悪い人」が見つかる方が、安心するからなのかもしれません。ウイルスという見えない脅威への不安やストレスから、特定の対象、つまり感染した人や地域、職業などを見える敵とみなして嫌悪する。その対象を差別して遠ざけることで一時的な安心感を得る、という構造があると言われていています。

現代社会において「差別は良くないこと」であるのは誰もが認めているところではありますが、それでも差別が「解禁」されるのは、「見かけ上の正しさ」が呼び出されるときです。自粛警察でいえば、「ルールを守らない人が感染を広げている」という大義名分です。

例えば、「正しさ」を主張する側は、

「自分は不要不急の外出を控え、自宅にこもっているのに」、……、

「十分な補償もなく休業しているのに」、……、

「自分は、何一つ悪いことをしていないのに」、……、

→「早く仕事をしなければ」→「感染者が減らなければ仕事ができない」→「仕事ができなければ生活できない」

→「仕事ができないのは出歩いているやつのせいだ」と怒り、感情のコントロールが難しくなる。

さらに、「つらいのは、あなただけじゃない。みんな同じじゃないか」という同調圧力が、さらなるストレスを生む。だからこそ、ルールを「破っているように見える」存在が許せないのでしょう。

そして、感染による重症化や命の危険への恐怖に加え、感染すること自体が「悪い」ことのように捉え、恐怖してしまう。どんなに気を付けていても、感染リスクは誰にでもあるし、たまたま交通事故に遭った人を、「自己責任だ」とは非難しないはず。それなのにコロナに関しては、感染は個人の自己責任とされ、まるで『罪人』のような扱いになってしまう。感染すれば罪人になってしまうから、それを避けるために自粛をする。コロナが怖いという以上に、社会的な制裁を恐れて自粛することになる。これは、著しく不健全な状態だと言えます。

『うちの業界で一人目になりたくない』『うちの大学で一人目になりたくない』という声を聞くのは、こうした背景があるからでしょう。

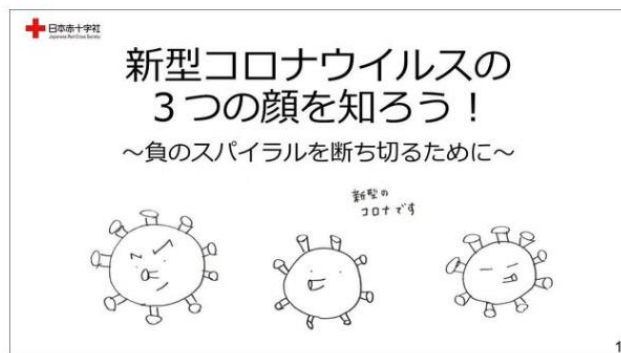
PCR検査の数が多ければ陽性者が増え同じ立場の人が増えて、陽性が目立つ状況にはならなかったはずですが、今後はPCR検査が増えるので、感染者の人権への配慮がより大事になります。

緊急事態宣言が解除されても、終息するまで新型コロナウイルスの感染が局所的に発生することは、十分に予想されます。そのとき、また攻撃される人たちが出ないように、一刻も早く差別や排除を食い止めていく必要があります。

かつて、福島原発事故現場周辺の自治体から避難してきた家族を、「受け入れるな、放射能がうつる」とヒステリックに叫ぶ大人がいて、それが学校での子どもたちによる「いじめ」にもつながったことを忘れてはいけません。「あんな恥ずかしいことは二度としてはいけない」と感じる人も多かったはず。

終わりに、日本赤十字社による「新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう」では、病気そのものの「体の感染」、不安や恐れ「心の感染」、差別という「社会の感染」というウイルスの3つの顔が「負のスパイラル」としてつながることを断ち切ることが大事なことだと言っています。

新型コロナウイルス感染に悪者はいないのであって、新型コロナウイルスより恐ろしい「正義」という伝染病に負けないよう立ち向かう勇気を持ちたいです。



<日本赤十字社「新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう」の一場面>

誰かを責めることは、感染から身を守るための効果的な方法でしょうか。

自分の息苦しさを解消しようとして人間は、見えやすいものから真っ先に攻撃してしまいます。危機が迫るとき、私たちは無批判に強さに従いやすくなります。

どうか冷静に、難局を乗り越える力を一人一人が強く持つていけることを願います。

<中野信子さん（脳科学者）の著書「空気を読む脳」より抜粋>

追記

イタリアの作家で物理学者のパオロ・ジョルダーノさんは、コロナの問題は「難民化」したウイルスのお引越し問題だと言っています。人間がどんどん森林を伐採し、野生動物の生活圏に近づいたために、これまで住み分けをしていたウイルスが生息場所をなくし、接触機会の増えた人間にお引越ししているのだそうです。

つまり、この事態は新型コロナウイルスでは終わらないということであり、ウイルスと生物は地球上に共存しているものだから、いやでも付き合っていくしかないということです。この事実を認識した上で、他のリスクとのバランスを考え、全体の被害を最小化する道を考えないといけないのでしょう。

本校の同窓会長で、毎年、卒業期の3年生に講義をいただいています歯科医師の江口康久万先生の著書『健康のすべては「歯」と「口」から始まる』が先日、出版されました。新型コロナウイルスとインフルエンザが口の状態とどう関係するのか、歯磨きがインフルエンザ予防になぜ効果があるのか、など体の健康に「歯」と「口」が大切であるというお話で、多くの新聞やテレビ番組で紹介されました。江口先生は後輩の万騎中生にもぜひ伝えたいと、来校した際におっしゃっていました。

生徒の皆さんも、新しい生活様式や環境に慣れるまで少し時間がかかるかもしれませんが、感染のリスクを少なくするための手洗い、うがいと共に、口腔ケアの歯磨きで免疫力アップをはかっていきましょう。

そして、日常を継続していく中でのお互いの支えあいや、相手への思いやりの気持ちを忘れずにね。

(令和2年 6月12日)

学校が再開しました

新型コロナウイルス感染症の影響により、3月より一斉臨時休校となっていた学校が再開しました。2度の延長があり、休校は、約3カ月にも及ぶ長期となりました。これほど長期間の休校は、生徒、保護者、教職員の誰も経験したことのないものとなり、誰もが不安な日々を過ごしてきたと思います。

第1期の6月1日(月)～6月12日(金)は、各学級を出席番号の奇数、偶数の2グループに分け、午前、午後の分散登校となりました。生徒は、南門より登校し、健康観察票による体調のチェックを受け、教室に入ります。教室内の席は、互いの距離が密にならないよう間を空けて座り、授業を受けました。その他、「学校再開における万騎が原中学校感染防止策等について」でお知らせしたような形での再開になりましたので、生徒も戸惑いも多かったと思いますが、2週間を経て少しずつ、学校の生活に慣れ、元気な姿が見られるようになってきました。15日(月)からは、昼食ありの全日登校になります。新しい生活様式を取り入れながらの学校生活が続き、学校が元の姿に戻り、みんなが安心して学校生活を送れる状態になるには、もう少し時間がかかりそうですが、今後も、感染防止と生徒の心のケアに努めてまいります。

■新型コロナウイルスに感染しないようにするために

感染経路の中心は飛沫感染及び接触感染です。人と人との距離をとること(Social distancing: 社会的距離)、外出時はマスクを着用する、家の中でも咳エチケットを心がける、さらに家やオフィスの換気を十分にする、十分な睡眠などで自己の健康管理をしっかりする等で、自己のみならず、他人への感染を回避するとともに、他人に感染させないように徹底することが必要です。

また、閉鎖空間において近距離で多くの人と会話する等の一定の環境下であれば、咳やくしゃみ等の症状がなくても感染を拡大させるリスクがあるとされています。無症状の者からの感染の可能性も指摘されており、油断は禁物です。

これらの状況を踏まえ、「3つの密(密閉・密集・密接)」の回避、マスクの着用、石けんによる手洗いや手指消毒用アルコールによる消毒や咳エチケットの励行などをお願いします。

(首相官邸HPより引用)



学校カウンセラー 小川みなみ による相談

6月～7月の相談日は

6月17日(水)・24日(水) 7月1日(水)・8日(水)・15日(水)です。

相談の予約等は、本校職員または相談室直通電話(391-5891)まで。



6・7月の予定をお知らせします

※予定ですので、感染の状況等により大幅に変更になる場合もあります。

6月				7月			
1	月	学校再開分散登校開始	昼食	1	水	部活動開始 1年生仮入部～9日	昼食
2	火		×	2	木		○
3	水		×	3	金	学校諸費口座引き落とし日	○
4	木		×	4	土		
5	金		×	5	日		
6	土			6	月		○
7	日			7	火		○
8	月	避難経路確認週間～12日	×	8	水		○
9	火		×	9	木		○
10	水		×	10	金	保護者面談	×
11	木		×	11	土		
12	金		×	12	日		
13	土			13	月	保護者面談	×
14	日			14	火	保護者面談	×
15	月	全員一斉登校開始 昼食開始	○	15	水	保護者面談	×
16	火	教材費徴収日	○	16	木	保護者面談	×
17	水		○	17	金		○
18	木		○	18	土		
19	金		○	19	日		
20	土			20	月		○
21	日			21	火		○
22	月		○	22	水		○
23	火		○	23	木	海の日	
24	水		○	24	金	スポーツの日	
25	木		○	25	土		
26	金		○	26	日		
27	土			27	月		○
28	日			28	火		○
29	月		○	29	水		○
30	火		○	30	木	大掃除	○
				31	金	TV集会	○
【8・9月の主な予定】				《期末テスト》			
17日（月）～21日（金） 教育相談				9日（水） 音・保体・技家・美			
9月1日（火） 防災訓練				10日（木） 社・英・理			
9月9日（水）～11日（金） 期末テスト				11日（金） 数・国			
夏休み前の最終授業日 7月31日（金）				夏休み明け最初の授業日 8月17日（月）			